

2017 年度春学期東京学芸大学「日本理解」「多文化共修科目」時間割・授業概要

2017/03/23

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
I 8:50- 10:20	多文化共修科目 C 世界の言語と文化 (斎藤純男) [N313]	日本理解 G 自然 (澤田康徳) [S307]			
II 10:30- 12:00		日本理解 C 人文 (有澤知乃) [S307]		多文化共修科目 A 異文化理解とコミュニ ケーション (岡智之) [N313]	
III 12:50- 14:20					
IV 14:30- 16:00				日本理解 A 教育 (戸田孝子) [C203]	
V 16:10- 17:40					日本理解 E 人文 (高崎恵) [S307]

- * 「多文化共修科目」は、学部の正規生（主に日本人学生）が履修できるCA科目として同時開講されており、留学生と日本人学生が共に議論しながら、世界の文化や社会の多様性について、学びを深めることを目的としています。
- * 「日本理解」は、留学生のみを対象とした科目で、日本の文化や社会について、留学生同士で議論したり、実技や見学などを行ったりしながら、多角的に学ぶことを目的としています。
- * 原則として、日本語プレースメントテストの結果がレベル1と2の学生を対象としますが、レベル3～5の学生についても授業によっては受講が可能です。第一回目の授業で担当教員に確認してください。

授業科目名	日本理解A：教育
担当教員	戸田孝子（とだたかこ）
ねらいと目標	<p>① <u>にほんご が しょきゅう の がくせい</u>： にほん の がつきゅう の ふんいき の なか で 「スピーチ の れんしゅう」 を します。にほんじん の がくせい が こべつ しどう します。じぶん の かんがえ の ポイントを にほんご に ほんやく します。 クラスメイト の 「はっぴょう を きいて りかい できるように」 チャレンジ します。</p> <p>② <u>日本語が、中・上級 の学生</u>： 日本の学級の総合学習の授業の雰囲気を経験しながら、いくつかの課題発表を通して、「比較文化に関する比較考察」を深めていきます。</p> <p>③ <u>教育を専門とする学生</u>： このクラスは、多様な専門、多様な日本語レベルの学生が受講します。現代の日本の学級では、このような多文化共存の学級経営や授業運営の技術が、教員に必要とされています。国際教育選修の日本人ボランティア学生と一緒に、「新しい教育のビジョン」について、発表や模擬授業を通して、新しい発想を得ていきます。</p>
内容	この授業は、留学生の専門や日本語のレベルに関係なく、一緒に学びたい人は誰でも受講できます。日本人の学生も参加します。「比較文化」と「教育」をテーマに、アクティブ・ラーニングを行っていきます。
テキスト	共通に購入する必要のあるテキストはない。
参考文献	授業中に適宜指示する。
成績評価法	<p>（しょきゅう の がくせい には とくべつ シート が ある）</p> <p>① 参加シート（授業に出席し、発表を傾聴して得た知見の記録）30%</p> <p>② 発表シート（自分の発表に関しての準備の記録と発表後の考察）40%</p> <p>③ 学期末レポート（授業を通して得られた「比較文化」または「教育」について新知見と考察）30%</p>
授業スケジュール	<p>① <u>4月中旬までの発表</u>：「私の名前」 自分の名前を母語で黒板に書き、そこから短いスピーチをします。名前の意味、名づけのエピソードなどを通して、母国の文化紹介の扉を開いていきます。</p> <p>② <u>4月後半～6月中旬までの発表</u>：「私が形成された環境」母国の自然、家族、学校、参加した活動などを動画、パワーポイント、実物教材、作品、文献を資料で紹介する発表です。留学中に日本で参加した活動を題材に、比較文化の視点で論じても構いません。</p> <p>③ <u>6月後半～7月末までの発表</u>：「将来の職業に向けて」、自分の描く将来のビジョンについて、自由形式で発表します。教員の方、教育を専門とする学生は、模擬授業を行っても構いません。</p> <p>各授業の初めの部分は、発表準備の時間とします。この時間に、日本人ボランティア学生に相談することができます。発表後に、クラスメイトから一言メッセージで作られた色紙が贈られます。日本の伝統的な「寄書き」です。</p>
授業時間外における学習方法	発表の準備、提出用シートへの考察の記入。学期末レポートの準備。
授業のキーワード	比較文化・アクティブラーニング・日本人学生交流授業・日本の学級
受講補足（履修制限など）	
学生へのメッセージ	専門領域や日本語のレベルに関係なく、日本人学生と共に、個人発表と質疑応答を通して、新しい比較文化の視点を得たい人は、誰でも受講できます。

授業科目名	日本理解C：人文
担当教員	有澤知乃（ありさわしの）
ねらいと目標	日本の伝統芸能（でんとうげいのう）の歴史や社会的背景を把握（はあく）すると共に、音楽や踊り、演技や舞台の特徴などを理解します。
内容	歌舞伎（かぶき）、能（のう）、人形浄瑠璃（にんぎょうじょうるり）などの舞台芸能や、箏（こと）・三味線（しゃみせん）・尺八（しゃくはち）などの音楽を、映像や実際の演奏と共に学びます。まず、それぞれの芸能ジャンルの歴史と発展を概説します。どのような時代に誕生し、どのような身分の人たちが何の目的で行なったのかという基礎的な背景に加えて、近現代の変化や新しい試みについても紹介します。その後、映像を見たり、実際に楽器にさわってみたりしながら、具体的に音楽や演劇の特徴を考えていきます。他国の芸能や音楽とも比較することで、日本の芸能文化の特徴を多方面から発見していきましょう。 毎回の授業後に、その日の授業で考えたこと関心を持ったことについてコメントを提出してもらいます。また、一つのジャンルまたはトピックについて授業で学んだことをより深めて発表します。発表後の質疑応答や参加者からの意見を取り入れて最終レポートにまとめます。
テキスト	特に定めません。
参考文献	文化デジタルライブラリー「舞台芸術教材で学ぶ」 http://www2.ntj.jac.go.jp/dglib/modules/learn/
成績評価法	授業後のコメント 50%（200字×10回、各0～5点で採点）、 発表 20%（10分×1回） レポート 30%（3000字×1回）
授業スケジュール	予定（第一回の授業で確定します。） 1. オリエンテーション 2. 能（のう） 3. 歌舞伎（かぶき） 4. 人形浄瑠璃（にんぎょうじょうるり） 5. 雅楽（ががく） 6. 箏（こと） 7. 三味線（しゃみせん） 8. 尺八（しゃくはち） 9. 琵琶（びわ） 10. 民謡（みんよう） 11. 発表 12. 発表 13. 沖縄の音楽 14. アイヌ民族の音楽 15. まとめ
授業時間外における学習方法	インターネットや図書館の資料などを活用して、様々な伝統芸能の映像を見たり音楽を聴いたりする。
授業のキーワード	伝統芸能
受講補足（履修制限など）	
学生へのメッセージ	日本にいる間に、できるだけ色々な公演やコンサートに足を運んでみてください。

授業科目名	日本理解E：人文
担当教員	高崎恵（たかさき めぐみ）
ねらいと目標	(1) 日本の宗教の歴史を理解する (2) 日本で見られる宗教の特徴を理解する (3) 現代日本の宗教事情について知見を広め、自分なりの意見を持つ。
内容	<p>現代の日本の宗教のあり方を理解するための基本的な知識を学びます。</p> <p>京都であるお寺を見に行ったら時、そのお寺がいつ造られ、なんという宗派に属するかという「情報」はパンフレットを読めばわかります。けれどもその「情報」を「理解」するためには、宗教的な基礎知識が必要です。基礎知識があれば、そのお寺は当時の国家的政策とどのような関係にあったのか、その宗派と特に強い結びつきをもっていたのはどんな人たちだったのか、そもそも、そのお寺がそこに建っていることにどんな意味があるのか、など、お寺に対する「理解」は一気に深まります。</p> <p>現代日本で起こっていることを自分なりに解釈するためにも、宗教的な基礎知識は役にたつでしょう。宗教意識の調査結果では、日本人の大多数が自分を無宗教だと考えています。しかし、新年には大勢の人々が神社やお寺に初詣をしています。キリスト教徒は日本の人口の1%程度ですが、日本の政治や思想や教育や医療など日本人の日常生活全般にキリスト教が及ぼした影響は甚大です。現在人気のあるマンガやアニメの中に日本の「伝統的宗教観」が見られるものがあります。</p> <p>この授業では、まず日本における宗教の歴史と、日本で見られる宗教の特徴を紹介し、宗教という観点から日本を理解する可能性をご紹介しますと思います。皆さんには、それぞれ具体的にテーマを決めて、宗教と言う観点からの日本理解を試みていただき、口頭とレポートでご発表いただきます。</p>
テキスト	特に定めません。
参考文献	授業のなかで紹介します。
成績評価法	平常点と個別研究で成績評価を行いません。平常点は授業参加と授業で行う小テストで評価します。小テストを行う場合は、前の週に内容を予告します。個別研究は、個々に興味のあるテーマについて短い発表をしてレポートにまとめていただきます。平常点50%、発表とレポート50%。
授業スケジュール	<p>受講生の人数と授業の理解度に応じて変更します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・自己紹介 2. 日本人は無宗教なのか 3. 日本宗教概観 4-7. 日本の宗教の歴史：古代／中世／近世／近現代 8. 個別研究テーマに関する意見交換 9-11. 現代日本の宗教：観光・巡礼/マンガ・アニメ/都市伝説 12-14. 個別発表とコメント 15. まとめ
授業時間外における学習方法	自分の身の回りにある宗教的な場所やものやできごとを見つけて、授業で学んだ知識と結びつけてみてください。
授業のキーワード	宗教
受講補足（履修制限など）	
学生へのメッセージ	日本の宗教を自分の言葉で人に語りたいたいと思ってもらえれば嬉しいです。

授業科目名	日本理解G：自然
担当教員	澤田 康徳（さわだ やすのり）
ねらいと目標	日本の自然環境に関する地域差を理解し，自然と文化や社会のつながりを説明できるようにする．
内容	日本は南北（なんぼく）に大きく広がり，日本海側と太平洋側でも環境は違います．環境に関する考え方や捉え方（とらえかた）は，場所や発達段階（はったつだんかい）によっても違います．日本の自然環境と人々の環境の捉え方を理解します．
テキスト	特になし．
参考文献	授業で紹介します．
成績評価法	授業の復習と感想 60%（毎回行います） 発表 40%（20分程度×1回）
授業スケジュール	講義 日本の空間的なひろがり 日本の自然環境 日本の社会環境 世界の中の日本 ：自然と人間との関係を探求（たんきゅう）するうえで，自然環境の理解は重要です．本講義では，自然は人間生活と密接に関わっているという認識に立って，環境を捉え（とらえ）ます．近年は，気候変動（きこうへんどう）と人間活動との関係に着目されることが多いです．その際に必要な，広域（こういき），地球規模（ちきゅうきぼ）で日本を捉える視点と，自分をとりまく身近な範囲から徐々に空間を広げて日本を捉える視点を養います． 発表 「私が捉える日本の自然的特徴」
授業時間外における学習方法	身の回りにある自然に関心を持ち，授業で学習した内容と照らし合わせたりする．
授業のキーワード	自然，気候，認識，環境，日本
受講補足（履修制限など）	
学生へのメッセージ	

授業科目名	多文化共修科目 A : 異文化理解とコミュニケーション
担当教員	岡 智之 (おか ともゆき)
ねらいと目標	多文化共修科目は、日本人学生と留学生をはじめとする様々な文化的背景を持つ学生が、授業という場でお互いに学び交流しながら、新しい気づきを生み出す場です。多文化共修科目 A「異文化理解とコミュニケーション」では、異文化に関する理解を深めるとともに、多様な文化を持つ学生の議論や協働学習を通して、多種多様な人々と対等にコミュニケーションを取ることができる能力を高めることを目的とします。
内容	異文化コミュニケーションや多文化社会に関する問題を、留学生など多様な学生との議論・交流を通して学ぶ。グループで多文化社会の問題解決を目指すプロジェクトを企画し、発表し、報告書としてまとめる。課外活動として、朝鮮大学校訪問、ブラジル人学校生徒との交流、ヒューマンライブラリー、国際交流合宿などを予定しています。
テキスト	特に定めません。
参考文献	原沢伊都夫『異文化理解入門』研究社、2011 『まんが クラスメイトは外国人—多文化共生 20 の物語—』明石書店
成績評価法	平常点 30% (授業の最後にコメント用紙提出)、課外活動 10% (感想文を含む)、最終発表 30%、最終レポート 30% (最終レポートは 8 月 3 日 (木) 締め切り。A4 用紙 3 枚程度、3000 字以上は書くこと。)
授業スケジュール	1. オリエンテーション、2. 文化とは何か、3. 在日外国人問題、4. 在日コリアン問題、5. 難民問題、6. 沖縄問題、7. グローバル化と言語教育、8. スタディツアー、9. ろう文化と手話 (ゲストトーク)、10. プロジェクト構想とグループ作り、11. プロジェクト準備と中間報告、12, 13, 14. 最終発表。15. まとめ。
授業時間外における学習方法	
授業のキーワード	
受講補足 (履修制限など)	日本語だけで授業をやるため、原則として、プレースメントテストでレベル 1, 2 の学生に限定する。
学生へのメッセージ	日本人学生と積極的に交流したい学生を歓迎します。

授業科目名	多文化共修科目 C： 世界の言語と文化
担当教員	齋藤 純男 (さいとう よしお)
ねらいと目標	さまざまな文化的背景を持つ学生（留学生、日本人学生）が交流しながら世界の言語と文化について学び、互いの議論や協働学習を通して、言語と文化に関する知識を得るとともに多様な考え方に触れて視野を広げることを目標とします。
内容	言語圏別に留学生・日本人学生混在のいくつかのグループに分かれ、与えられたテーマについて担当の言語圏について調べて発表するとともに、他の言語圏についての発表を聞き、互いに討論しながら世界の言語と文化について総合的に考える。
テキスト	使用しない。
参考文献	教室で指示する。
成績評価法	出席 40%、授業への取り組み 30%、発表の内容 30%
授業スケジュール	まず、授業担当者が <ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容と性格について説明し、受講者を決定する ・受講者をグループ分けする ・課題を与える そのあと、受講者が <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに、与えられた課題について話し合ったり、資料を調べるなどして、発表する ・それぞれの発表について、全員で議論する
授業時間外における学習方法	発表の準備のために、資料を読む、担当の言語圏出身者にインタビューする、得た情報をまとめる、など。
授業のキーワード	言語、文化
受講補足（履修制限など）	受講者数を 20 人ぐらいに制限する。
学生へのメッセージ	